

春まき小麦「はるきらり」を倒さずにたくさん穫る！

～ 土壌区分別の安定栽培法 ～

平成19年に優良品種となった「はるきらり」は、多収で倒伏と雨害に強いことから普及拡大が期待されるパン用品種です。

本成果では平成20年に示された全道版の栽培法をベースに、道東地域で倒伏を回避しつつ、蛋白を11.5%以上を確保する土壌区分別の栽培指針を策定しました。

倒伏を低減するには穂数を600本/㎡程度に

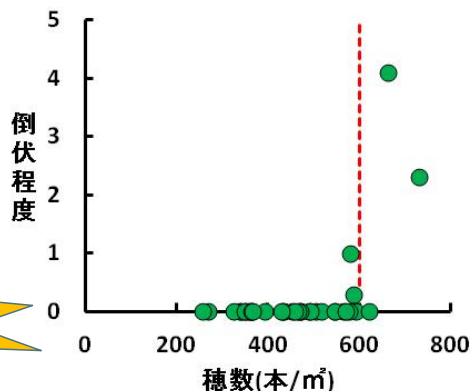


図 「はるきらり」の穂数と倒伏の関係
穂数600本/㎡以上は倒伏が増える！

【目的】

蛋白(11.5%)を確保する

倒伏を回避する

【対応策】

土壌肥沃度に応じた施肥

後期追肥の活用

植物成長調整剤の散布
(茎伸長の抑制を目的)

窒素肥沃度区分L
(熱水抽出性窒素5mg/100g未満)

止葉期追肥と開花期以降の葉面散布を併用

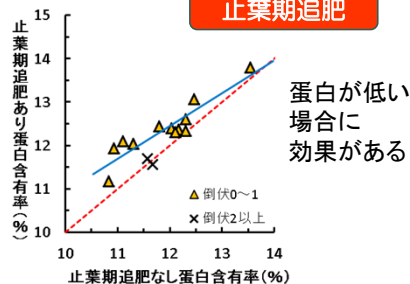
窒素肥沃度区分M
(// 5~10mg/100g)

後期追肥は開花期以降の葉面散布で

窒素肥沃度区分H
(// 10mg/100g以上)

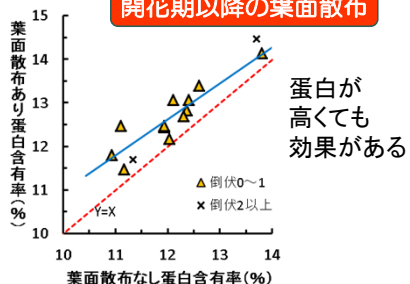
基肥の窒素を4kgN/10a減肥し、後期追肥は開花期以降の葉面散布で

止葉期追肥



蛋白が低い場合に効果がある

開花期以降の葉面散布



蛋白が高くて効果がある

稈長が短くなり倒伏を軽減：散布↓



↑無散布：雨で大きく倒伏

植物成長調整剤	稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏程度 (0-5)	子実重 (kg/10a)	製品収量 (kg/10a)	蛋白 (%)
なし	90.3	615	3.5	473	403	12.2
あり	83.8	684	1.8	529	463	12.1

※ オホーツク・十勝地域8地点の平均

◎ 区分MとHは穂数が多くなりやすく植物成長調整剤の散布が有効です

土壌肥沃度の違いに対応

後期追肥より施肥を効率化

植物成長調整剤は倒伏被害の低減に有効

表 道東地域における「はるきらり」の栽培指針

窒素肥沃度区分	熱水抽出性窒素 (mg/100g)	窒素施肥量 (kgN/10a)			植物成長調整剤の使用	備考
		基肥	止葉期	開花期以降		
L	0~5	12	4	3	特に散布を前提としない	MやHに比べ低収になりやすい
M	5~10	12	0	4	推奨	
H	10以上	8	0	4	推奨	倒伏発生の危険が高いため基肥の施肥量は過去の栽培実績も考慮する

窒素施肥量は蛋白含有率11.5%以上を目標とする値であるが、高収(粗原子実重540kg/10a程度以上)の場合は下回る場合がある有機物施用および前作残渣の還元による窒素施肥対応は従来通り行う